

『縄文文化の疑問と概説』

— 日本列島人の気質を探る —

— 世界に誇れる独特の美意識と木と土の文化 —



発表：V0.0 2019/5/4 横浜歴史研究会 宮下元

はじめに1・・・今、縄文か

昨年5月に、旧石器の話をした。3.8万年前から五月雨式に日本列島に到来した旧石器時代人が、海面上昇で列島に残されたのが縄文人と類推される。

縄文人は1万年の間、列島内でほぼ均一であった。

現代日本人の遺伝子の1～2割が縄文人遺伝子という。

文字が無く、謎だらけの縄文文化を、疑問点を中心に概説的に私見を交えお話ししたい。

縄文文化は、縄類(糸・紐・綱・網・籠)を敬う、木(縄)と土の独自の文化である。

金属道具無しで西欧やアジア大陸文化とは一線を画す。近年、三内丸山遺跡の発掘で、

縄文観が大きく変わった。また、小牧野のストーンサークルも見つかれば謎は深まるばかり

である。中でも土器・土偶の美的センスと先進性・多様性・精神性は他に類を見ない。

世界遺産として誇るべきものだ。次の世界遺産の申請は、東北の北部と北海道南部の

縄文遺跡だそう。なお、噴火湾の遺跡発掘に谷川操一先輩が携わったとのことである。

噴火湾遺跡群の中で前期縄文時代が解かる北黄金貝塚(きたこがね)を紹介したい。

おさらい 1 …海も越えた冒険家

ラスコー展の再現像を見てわかるように、現代人と後期旧石器時代人は身体も知能も変わらない。装飾も付ける。違いは文化・知識・道具の進歩だ。進化はわずかで肌の色など位。

ホモ・サピエンス(・サピエンス)とは賢い人の意味である。我々現生人類の学術用語だ。

また単に『新人』とも呼ぶ。30or20万年前にアフリカで出現した。

新人は6万年前～にアフリカから世界中に拡散した。欧州の新人がクロマニヨン人で白人系、

アジアに進出した新人が新旧モンゴロイド。そして3.8万年前日本列島に到着した。

石垣島人骨からの復元顔をみると南方系である。この縄文以前を『後期旧石器時代』と呼ぶ。

同時期の新人クロマニヨン人は海に出なかったが、列島人は海洋に進出した冒険家である。

おさらい 2 …氷河期が終わり縄文時代へ

実は、後期旧石器時代遺跡(石器)が相模野台地など日本に1.4万カ所もみついている。

日本の特徴は、ローム層で時代が判明し、2.5万年間に石器が急激進歩したとわかった。

当時は氷河期で寒く、瀬戸内は沼地だった。オオツノシカやゾウ(ナウマン・マンモス)など

大型動物が季節移動していて、サピエンスも狩で移動していた。

ゾウは最上級の食料で、一頭狩るだけで大量で旨い。

ナウマンゾウなど大型獣を狩るには統率・分担・共同作業が必要である。

ゾウを沼地に追い込み、ぬかるみに足を捉れたら、槍でじっくり弱らせる。

湖畔(野尻湖など)で、解体作業し運搬し皆で分配する。余ったら燻製・冷凍で保存。

氷河期が終わり、そして、列島からゾウや大型獣が消えた！

はじめに2・・・縄文時代概論

縄文時代とは約1万年間、日本列島で育まれた独自の文化である。

氷河期が終わり温暖化で海面上昇で、日本半島が島国となった時に始まる。

現代日本人の遺伝子(DNA)の約2割が縄文系ではとされている<NHK>。

では、弥生時代や現代日本人とどう違って、どこが同じなのだろうか？

縄文人(骨)はほぼ均一で変化がないのに、弥生人になると多種多様(多人種・混血)

になる。三内丸山遺跡の発見・発掘により、4500年前がいろいろ見えて来た。

重労働と過酷な自然はあったが、結構食べ物もあり、多種の道具を駆使して

自然と協調した文化と思われる。一言で言うと『木と土と石』の文化。

ただ、気候変動や地震・火山・雷による飢餓・災害への不安が強かったとも言える。

なるべく現地を見て、縄文人の生活を想像してみたいと思う。

なお、『新石器時代』とは、通常、磨製石器だが、列島では時代分別はすべきでない。

旧石器時代の列島では、刃部磨製石器(斧)が既に出土しているからである。

金属器(青銅器・鉄器・金銀)と大規模水田耕作の出現で、縄文時代は終焉する。

なぞ1: 何故いま縄文文化なのか

縄文文化への評価はそんなに古くない。縄文美を世に知らしめたのが岡本太郎である。

また、三内丸山の発見が大きい。1500年間の時間的変遷が分かったからである。

土器は世界最古参だし、土器・土偶の独特の美が評価され、最近になって土偶5体、長岡の火炎式土器一式1件が国宝に認定された。人骨も発見され、遺伝子分析件数が増えつつあり、新発見が相次いでいるからである。

◆なぞ2： 世界遺産への意義？

次回の世界文化遺産登録が、『北東北・南北海道縄文遺跡』に決まりそうである。青森・秋田・岩手・北海道南の17カ所だそうだ。メソポタミアやアジア大陸と一線を画した、金属器の無い豊かな独自文化だからだ。縄文人の三大発明とは？ それは、①弓矢、②土器、③縄類 である。縄文時代は、槍は激減し、鏃石器(弓矢)が量産された。大型動物がいなくなり、小型動物を狩るのは弓矢だからである。土偶は、他国に見ない列島独自でその美的感覚には圧倒される。土器の出現は世界最古産(大平山元遺跡15000年前)で、食文化が飛躍的に発展した。煮炊き(スープ)料理が可能になった。灰汁抜き、食料貯蔵、食器他様々な用途に利用。縄は残っていないが、籠、網、綱など狩猟採取生活に様々な利用していたと思われる。縄類は列島人だけに限ってはないが、様々な重宝し神聖化していたと思われる。もちろん、北に限らず、列島各地に遺跡はあり、列島全体で申請すべきなのだが、新発見が相次いだ北が手を挙げたからである。

◆なぞ3： 現代人と縄文人の関係？

今のところ、現代日本人の遺伝子の12～20%が縄文人遺伝子だそうだ。また、2.3%が旧人ネアンデルタール由来。大半が弥生時代以降の渡来である。ただし、現代朝鮮人・中国人とは離れており、人種的關係は強くない。弥生人も各ルートから五月雨式で渡来し、徐々に融合・混血していったと推測される。早期弥生人は、縄文人系が濃いとの説も出ている。稲作文化が先に伝播したらしい。現代日本人の遺伝子的形態は、弥生時代後期には固まったとの説もある。

◆なぞ4： 縄文人はどこから来たか？

旧石器列島人が、氷河期終了で取り残されたのが縄文列島人と思われる。渡来ルートは様々だが主に3ルート。①琉球伝い、②サハリン、③韓半島。縄文1万年間は、均一で、大きな民族移動はなかったようである。定住していたが、交流・交易は結構あったようだ。

◆なぞ5： 縄文人は平和・安寧だったか？

貝塚からみると、狩猟・漁労・採取で食べ物は多種雑多で結構豊か。自然環境は厳しく、十和田湖の火砕流、地震津波など驚異だったろう。子供の墓が異常に多く、病氣・飢餓が付きまとっていたと思われる。労働環境もきつく、歯の摩耗、作業分担で同じ姿勢のあとあり。自然に対する、敬意・畏怖は強かったようだ。祭礼の遺物が大量に出土されている。戦さの痕跡は、弥生時代に較べ極端に少ない。集团的争いはなかっただろう。

◆なぞ6： 何故、縄目模様なのか？

縄文時代との名前は、土器の表面に縄目が付けられていたからだ。縄目には、機能的効果は殆どない。美的効果はあるが。模様は様々だが、縄目は基本である。縄目になぜこれほどこだわったのだろうか？ 縄の材料は弱くやわだが、燃る(よる・ねじる)ことによって、強くなる。燃ることで、糸・紐・網・籠など、漁労収穫量や衣服に多大な効果をもたらした。また土器の発明も、海産物の煮炊き、団栗類のあく抜きに多大な効果があった。ありがたさ(感謝)と自然への敬意をこめて、わざわざ模様を施したのだろうか。(一説では、蛇を神聖化し、縄目で顕したとのこと。脱皮の再生、交尾)。

◆なぞ7： 三内丸山でわかったこと？

三内丸山(さんないまるやま)遺跡とは、青森市南部の縄文時代の大規模集落跡。江戸時代にも知られてたが、30年前、1992年大規模発掘開始。青森駅から7km車20分。空港から8.5km車30分。陸奥湾を見渡す丘の上(河岸段丘)。当時は丘下までが海岸だったと思われる。県営野球場を建設する事前調査として再発見され、野球場建設を中止し、遺跡の保存を決定した。そのまま野球場にされていたら、貴重な財産が失われていたところだった。市民活動による世論沸騰のたまものである。4500年前に約1500年間続いた(BC2500～BC1000年頃)。京都は1075年間(794～1869年)。荒らされていない、堆積層から、1500年間の推移が判明した貴重な遺跡。莫大な出土物。

BC1000年頃突然放棄。原因不明。気候変化(寒冷化)でクリ栽培や漁労ができなくなったか？

<特徴>

1. **大量の出土物**…1996年時点で土器等リンゴ箱40万箱。この数十倍が未だ埋まっている。大きな盛土(モリ)の土遺溝(祀りゴミ、**何度も土覆い**)が3カ所。整地し再利用を繰り返す。第3鉄塔地区隣の谷が土器捨て場で何層にも土を被せている。
2. **大量の建物跡**…**竪穴住居**(深さ1m)580棟(全体で3000棟)。掘立柱建物100棟以上。
3. **クリ栽培とクリ柱の高層建物(掘立柱跡)**:
周辺に大量のクリ花粉が出土。クリ種類が集中。手入れされたクリ林。
高さ20~30mの高いクリ柱の穴が出土。直径1m。
★6本柱の柱穴は直径約2m、深さ約2m、間隔が4.2m、中に直径約1mのクリの木柱。内側に**角度2傾く**。何故か間隔は**35cmの倍数**。35×12=421cm。
4. **長い墓列**…大人100基以上、子供800基<1996年>。幅10m道の両脇。シンプルな土抗墓。
5. **人里昆虫の化石**:
縄文時代初期から既に落葉樹林の昆虫が多数を占めていた。温暖だった。
6. **縄文酒**:
ニワトコや野葡萄の種子やカスが大量(5l)出土。醗酵させ果実酒を造っていたとの新説。
7. **長距離交易**…日本海を対馬海流で一気に北上し、沿岸ルートで南下？
日本各地の産物が出土。集積地・交易地か。ただし、各地で青森産物は未だ見つからず。
8. **長期計画性(場所区分)**…埋没谷(ゴミ場)、道、墓域、高層建築、盛り土を1500年にわたり集落内の区画区分が守られている。盛り土場所を繰り返し利用。東西道路は幅8~15m長さ420m深さ30cm火山灰で舗装で、その両側に墓を並べる。
9. **三内丸山のメイン食材**:
主食はヒエ(イヌビエ)・クリ・ドングリと貝類。魚は鰯など小魚が多い。
肉は野兎・鹿・猪の他、ムササビ・イタチ・キツネなど小型動物も見られる。
海魚骨はサメ・ブリ・タイ・サバ。遡上のマス・鮭も見つかる。
何故かブリ・サバは**頭骨が無い!**。
栽培は、クリ、ウルシ、ヒョウタン、エゴマ、イネ、アワ、ヒエ

★三内丸山以後、集落は川沿い山間部に拡散される。メイン食料はサケ・マスに変わった？
★縄文論争が沸き起こった。①クリ栽培説、②イヌビエ栽培説、③三内丸山都市説

◆なぜ8: 縄文人は農業していたか？

栗林を集落の周りに計画的に植え、栗実採集と住居用木材に使っていた。
稗の野生種『イヌビエ』を栽培していた。陸稲など稲作も行っていたと思われる。
漆も含め、計画的な小規模栽培の農作・林業である。
ただ、まだ、狩猟・漁労・採集がメイン食材であり、これを農耕・農業と定義するかは異論が多い。

◆なぜ9: 三内丸山は都市だったか？

住居から常時500名程度と推測される。列島各地の産物も出土。
縄文列島人の人口は当初5万人、末期20万人前後と推定。東日本(関東以北)に集中。
西日本は深い広葉樹林の為少ない。団栗・栗が少なく、石器では森林伐採できない為か。
平均寿命30歳。子供の死亡率大。身長男157cm、女147cm。手足長い。虫菌多い。
三内丸山の巨大な施設は、集会所と思われ、櫓は海からの来訪者への灯台の可能性もあり、縄文時代の中心都市だったかもしれない。
500人を賄う食料は量面から疑問視。クリだけなら6000本必要。イヌビエなら賄えそう。
西洋都市と違う形態の『都市』、『縄文文明』とまで言えるか？結論は出ていない。

◆なぜ10: ストーンサークルの目的とは？

近年1989年に小牧野からストーンサークルが青森山田高校によって発見された。
青森空港から直線1Km。日本にも各地に数カ所ストーンサークルが作られた。
英国のストーンヘンジ(直径100m・高さ7m)に較べたらとても及ばない小規模であるが。
三重で、直径35m、29m、2.5m。長い平俵状の石を『小牧野式配列』組石を組む。
①なぜ斜面？ →眺めの良い高台に。海に面した軽斜面。土を削り平らに。
②なぜ真円でない？ →四角へのこだわりか？ 墓地を兼ねて。
③なぜ集落の上か？ →祭礼の為の集会広場か。祭礼ゴミ(盛り土)出土。
季節判別(夏至冬至)、日時計、祭礼場・集会場、先祖リーダーの墓 などの説である。
目的を含め、今のところ謎だらけである。

◆なぜ11: 北海道と青森の違い？…噴火湾遺跡の紹介

東北北部と北海道は、同一文化圏(円筒土器)と思われる。気候も似通っている。津軽海峡はあるが、かなりの交流が認められる。噴火湾(内浦湾)沿岸には縄文遺跡が集中している。ここでは、『北黄金貝塚遺跡』(きたこがね)を紹介する。伊達市の近くである。噴火湾の名前は、円形湾で噴火火山に囲まれていたので、イギリス海軍が名付けたのを和訳。実際のカルデラではない。

■北黄金貝塚遺跡・・・北海道の自然を生きた縄文人

1948年伊達高校教師の峰山巖氏によって発見発掘された、縄文前期の遺跡。2000年間(7000～5500年前)続いた。三内丸山より古い。3～5軒20名程。貝塚に墓が作られ、人骨が溶けずに残り、14体も発掘された貴重な遺跡。海岸からほど近い丘陵(畑)で、湧き水があった。食べ物の7割が魚介類。黄金(こがね)の名前はアイヌ語『おこんしべつ』からで、昆布の採れるところの川。

1. 3種の土器

- ①地層上層：円筒土器下層式。貝塚。縄文前期の終わり頃(～5500年前)。
- ②中層：縄文尖底土器(砲弾型)。貝塚。縄文前期の初め～中頃(7000年前～)。
- ③最下層：上坂式土器。貝塚の下。貝殻引掻き模様。縄文早期？(8000年前)

2. 貝塚3か所の推移・・・気候変化に対応して移動した

- ①B地点：縄文前期初め。直径15m円形。厚さ50cm。蛤・帆立・鮪・鱸・鹿・熊。温暖
- ②C地点：縄文前期半ば。60×20m。厚さ2m。下層が蛤。上層がカキ・帆立・ウニ。
- ③A地点：縄文前期終わり。カキ・イガイ・ウニ・オットセイ。鈷とヤス。
A'地点：巨大貝塚で85×20m、厚さ50cm。墓も同時期一緒に、屈葬。
・この後、縄文中期(5500年前～)になると、海岸砂丘に住居を移動し捨てられる。

3. 墓と人骨

何故か貝塚の中に同時期に墓を作り丁寧に埋葬している。貝塚は単なるゴミ捨て場というより、食べ物や人間に役立った物への感謝の祭礼場。計画的に何層にもわたり、祭礼の跡が窺われる神聖な安らぎの場(墓場)のようだ。帆立を6枚重ねたり、鹿の頭骨を並べたり、動物儀礼もしている。土坑墓は貝塚の中に掘って屈葬で埋葬し、楕円形の土饅頭。大きさはほぼ同サイズ。上には土器や石皿・石冠(=擦り石)を何個も伏せて載せている。墓標だろうか？子供は、土器(底を壊す)に入れて埋葬。屈葬なのは、胎内(胎児)を示し、再生を願っているのかもしれない。貝塚のお陰で溶けずに人骨が残った。特徴は三内に比べ虫歯が極端に少ない事。食べ物は7割が海産物だからか。団栗など植物性は飢餓向け保存食のようだ。アイヌ人との遺伝的類似も指摘されている。

4. 水場は、礫石器集中遺構で神聖な場か？

湧き水の傍に住居。水場も神聖な場のようで、使い終わった石器(礫石器:石皿・擦り石)が大量に置かれている。30×10m。逆様に臥せられ、礫石器の祭礼墓地のようだ。

◆おわりに

縄文人を一言でいうと、自然と共生し、助け合う祭礼集団。特徴は計画性と順応工夫力。縄文から学ぶとしたら、『自然との共生(循環型)』『多様性尊重と協力』だと思う。

◆引用・参考文献

- 『北の自然を生きた縄文人 北黄金貝塚』: 青野友哉著。¥1500。新泉社。2014/10/15発行
- 『三内丸山遺跡と北の縄文世界』アサヒグラフ別冊、朝日新聞社、1997。08
- 『縄文遺跡群世界遺産登録本部』&『青森県』のHPと発行資料
- 『日本人はどこから来たのか?』: 海部陽介(国立科学博物館)。同上の特別講演第1回。H28年12/18
- 『3万年前の航海』徹底再現プロジェクト ー祖先たちは偉大な航海者だった! ? ー
: 海部陽介・国立科学博物館。協賛: NHK <https://www.kahaku.go.jp/research/activities/special/koukai/>
- 『サピエンス全史』(上): ユヴァル・ノア・ハラリ。河出書房新社。2016/9/30。各¥1900
- ウィキペディア □Google MAP

以上